

既存システムの運用業務への AI 技術活用の調査・研究(クラス 2)

アブストラクト

1. 研究の背景／課題／問題認識

多くの企業が抱えているレガシーシステムは、保守運用業務の継承や負荷低減の推進が課題となっている。さらに、老朽化したシステムの仕様を理解する人材が枯渇し、業務基盤の維持・継承はさらに困難になることが見込まれる。そのような中で、解決策の1つである AI 技術へのニーズは高まっている。しかしながら、企業が AI 技術導入を検討しても簡単に進まないのが現状である。本分科会では、システム運用業務を対象として、人的リソースや AI 導入の知見が十分でない現場であっても、AI 技術の効率的な導入を実現することを研究目的とする。

2. 研究の進め方

本分科会では AI 技術導入にあたり技術調査の方法や作業手順・判断基準が具体的に示されたものが存在しないことが、AI 技術導入の障壁であるという仮説に至っている。

そのため、本分科会ではまず、既にある AI 導入についてのガイドライン・AI 導入事例の中から、経済産業省の「AI 導入ガイドライン」を用いて検証し、仮説の正当性を確かめている。検証作業の結果、経済産業省の「AI 導入ガイドライン」には、①「ガイドライン使用者を考慮した具体例や補足説明」②「AI 製品を選定するプロセスの補助」が不足していると考えている。

本分科会では、この2要素を補うことで「AI 導入ガイドライン」の有用性を高められないかという観点で研究を行う。

3. 研究内容／研究成果

上記の2つの不足要素に対応するため、経済産業省の「AI 導入ガイドライン」を改善・補強する形で、システム保守運用業務に特化した「ガイドライン」「AI 選定活用ツール」を作成している。

まず、「ガイドライン」は、「AI 選定活用ツール」の目的と利用方法について述べており、AI 技術導入における手順やノウハウをまとめた成果物である。次に、「AI 選定活用ツール」は、AI 製品の選定完了までの手順を3ステップに分割して整理し、順番に行うことで効率良く AI 製品の選定ができる成果物である。

4. 評価

本分科会の成果物である「AI 導入ガイドライン」「AI 選定活用ツール」は、IT 部門担当者を対象とするアンケートで評価している。この結果、各成果物共に肯定的な意見が多く得られたため、本研究会の成果物は有効であると判断できる。よって、本分科会で作成した成果物を利用することで、効率的な AI 技術導入が実現できるといえる。

5. まとめ

本分科会で作成した「AI 選定活用ツール」は、各社の状況や社会情勢に応じて更新していくことで、有効性を維持・向上することができる。

本研究をもとに AI 導入手法やシステムの構築手法に関する研究が進むことで、既存システム運用業務に対する AI 技術導入の更なる効率化が実現することを期待する。